記者発表資料

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和３年１１月１２日
東北地方整備局

データとデジタルを活用しDXを推進します！

～東北地方整備局 インフラ DX 推進本部の発足～

東北地方整備局では、建設業にかかる受発注者の働き方改革や建設現場の抜本的な生産性向上、デジタルに対応した人材の育成を目的に、データとデジタル技術を活用したインフラ分野のＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）を推進するための体制を設置します。

【概要】

１.名称　東北地方整備局インフラＤＸ推進本部会議（第１回）

２.日時　令和３年１１月１８日(木)　１０：３０～１０：４０　本部設置
１０：４０～１１：３０　推進本部会議(第１回)

３.場所　東北地方整備局 大会議室　仙台合同庁舎Ｂ棟　１２Ｆ

４.議事　インフラＤＸ推進体制及び基本方針等について（推進本部会議）

◆取材について
○撮影は、報道機関に限り、推進本部会議の冒頭挨拶のみ可能です。
○取材を希望される場合は、事前に別紙－1「取材申込書」にてお申し込みください。
○取材の際は各自にてマスクをご準備のうえお越しください。会場でのマスク着用、消毒にご協力いただけない場合は入場をお断りさせていただきます。
○事前に取材に係る説明を行いますので、当日10時15分までお越しください。

＜発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会＞

＜問い合わせ先＞

国土交通省　東北地方整備局　企画部
TEL　022-225-2171(代表)

建設情報・施工高度化技術調整官　小山田（おやまだ）　桂夫（かつらお）(内線 3132)
技術管理課長　安部（あべ）　剛（つよし）（内線 3311）
施工企画課長　布宮（ぬのみや）　明道（あけみち）（内線 3451）

別紙－1

国土交通省東北地方整備局
企画部　施工企画課　宛
申込先 FAX　022-227-0817
Mail　thr-infradx@mlit.go.jp

東北地方整備局インフラ DX 推進本部会議（第 1 回）
【11月18日(木) 10:30～11:30】

取 材 申 込 書

取材をご希望の報道機関におかれましては、事前に「取材申込書」へ必要事項をご記入の上、FAX 又は Mail にてお申し込みください。
申込み締め切りは11月17日(水)17:00 です。
取材に係る内容は、添付「取材要領」をご確認ください。

令和　　年　　月　　日

所属記者会（所属する記者会に〇をつけて下さい。）
・宮城県政記者会　・東北電力記者会　・東北専門記者会 ・その他（　　）
会社名及び部署名
取材者（代表者）の役職・氏名・連絡先
【代表者の連絡先（携帯番号等）】
取材者の人数（カメラマン、音声担当等も含めた総人数）
人

・上記のとおり取材を申し込みます。

取材申込等に関する問い合わせ先
国土交通省東北地方整備局 TEL　022－225－2171（代表） 企画部施工企画課 専門員　　千葉（内線3461）

－取材要領－

1. 事前申し込みについて

　取材を希望される方は、事前に「取材申込書」により FAX 又は Mail でお申し込み願います。

　申込期限：11月17日（水）17：00とさせていただきます。

　申込先　：（FAX）022－227－0817　（施工企画課）

　　（Mail）thr-infradx@mlit.go.jp　（東北地整インフラ DX 共有）

なお、記入欄は、日程の変更などのお知らせや、取材スペースの確保に必要な事項ですので、記入漏れの無いよう御協力を御願い致します。

2. 当日の受付について

会議会場（大会議室　仙台合同庁舎B棟　12F）前で受付を済ませてから入室して下さい。

受付時間は、10：00～10：15です。事前に取材に係る説明を行います。

3. 取材者の撮影と傍聴等について

・取材者の撮影は、推進本部会議のうち、冒頭の挨拶のみ（議事開始前まで）とさせて頂きます。

・傍聴については、本部設置から推進本部会議終了まで可能です。

・入退室については、本部設置から推進本部会議終了まで制限させて頂きます。

・質疑・応答は、推進本部会議終了後、時間を設けます。

4. 新型コロナウイルス感染症防止対策について

・ソーシャルディスタンスを確保するため座席の間隔を空けて開催します。

・会議中は感染防止のためマスク着用をお願い致します。

・受付時に手指消毒用アルコールで消毒をお願い致します。

・発熱、咳、呼吸が苦しいなど体調がすぐれない時は出席をご遠慮ください。

5. その他の留意事項

取材に当たっては担当者の指示に従って下さい。

インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション（DX）の方向性

国土交通省
東北地方整備局

取組の背景

○建設現場の課題
- ・将来の人手不足
- ・災害対策
- ・インフラ老朽化の進展　等

⇨ 生産性向上を目指し、i-Constructionを推進

＋

○社会経済情勢の変化
- ・技術革新の進展（Society5.0）
- ・新型コロナウイルス感染症に対応する「非接触・リモート化」の働き方
- ・行政のデジタル化を強力に推進
- 等

⇨ インフラ分野においてもデジタル化・スマート化を強力に推進する必要

【インフラ分野のDX】

○社会経済状況の激しい変化に対応し、インフラ分野においてもデータとデジタル技術を活用して、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスを変革すると共に、業務そのものや、組織、プロセス、建設業や国土交通省の文化・風土や働き方を変革し、インフラへの国民理解を促進すると共に、安全・安心で豊かな生活を実現。

➢ DXの概念
進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変換すること。

「行動」のDX	「知識・経験」のDX	「モノ」のDX
どこでも可能な現場確認	誰でもすぐに現場で活躍	誰もが簡単に図面を理解





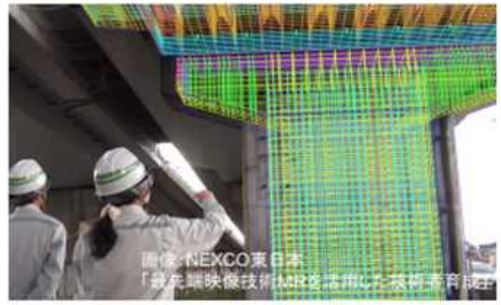


社会資本や公共サービス、組織、プロセス、文化・風土、働き方の変革

インフラへの国民理解の促進と安全・安心で豊かな生活を実現

インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション（DX）の方向性

国土交通省
東北地方整備局

		Before（Now）	After（Future）
国 民	●行政手続きの迅速化や暮らしにおけるサービス向上の実現		
業 界	●危険・苦渋作業からの解放により、安全で快適な労働環境を実現		
	●インフラのデジタル化で検査や点検、管理の高度化を実現		
職 員	●在宅勤務や遠隔による災害支援など新たな働き方を実現		

東北地方整備局におけるインフラDXの推進体制（案）

国土交通省
東北地方整備局

インフラDXルーム



DXデータセンター等



各地整DX推進センター

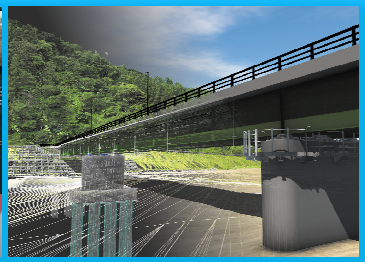


連携　提供　利活用　連携

東北地方整備局インフラDX推進本部

- 非接触・リモート型の働き方への転換
- 新技術の活用促進
- 3次元データの利活用促進
- デジタル人材の育成・環境整備


《 非接触・リモート型の転換 》


《 BIM/CIMﾃﾞｰﾀの活用 》



《 VR・AR・MRの活用 》

東北復興 i-Consturction 連絡調整会議

連携

業務・工事の受注者

活用促進
技術支援

若手技術 学生・生徒等

人材育成

地域住民等

情報発信

大学等の学術機関

指導・助言

自治体（東北6県・仙台市等） 関連業団体・建設業者

連携

i-Conｻﾎﾟｰﾄ事務所等

技術支援
人材育成

- ◉サポート事務所
  （青森/岩手/仙台/秋田/山形/福島）
- ◉その他事務所・管理所

各職場・業務・工事でDXを実践

i-Conモデル事務所

連携



先進的な工事現場

連携

（成瀬ダムの自律自動施工や除雪作業の高度化など）

東北地方整備局におけるインフラDXの推進体制（案）

東北地整備局インフラDX推進本部

本部長：局長、 副本部長：副局長、 本部員：各部長等

幹事会

幹事長：企画部長、 副幹事長：技術調整管理官、 幹事：各部の官クラス

DX推進部会

検討テーマに応じた各部会

部 会 名	検討テーマ
DX企画部会	DX推進に係る企画立案・総合調整 DXに係るデジタル人材の育成・環境整備・業務効率化
デジタル情報活用推進部会	設計施工分野における非接触・リモート型の働き方への転換、3次元データの利活用促進
施工技術開発部会	施工分野におけるAIや5G等新技術の活用促進
河川部会	河川分野における新技術や3次元データの活用促進
道路部会	道路分野における新技術や3次元データの活用促進
港湾部会	港湾分野における新技術や3次元データの活用促進
営繕部会	営繕分野における新技術や3次元データの活用促進